

## 電子メールを使った町紹介の一連の活動 (7年生 Here We Go! 1 ラウンド 4)

①書く

②個・学

③TV

③タブ

④電子メール

### 【ここがポイント！】

#### ①「ビデオレターによる場面設定」

アメリカに住むALTの家族に協力してもらい、ビデオレターを作成し、生徒が視聴することで、実際のコミュニケーションを行うことができるため、相手意識をもって「書く活動」に取り組むことができる。

#### ②「タブレットを使って情報収集」

生徒は相手の興味・関心に応じた町紹介をするために、タブレットを使って情報を集めたり、集めた情報を取捨選択したりする。

#### ③「電子メールで伝える」

生徒はアメリカに住むALTの家族に向けて、おすすめの場所・食べ物を電子メールで伝える。相手に応じた英語表現や電子メール特有の表現に気付くことができる。また、教師は生徒が送ったメール文を基に評価することができる。

### 【実践の目標】

ALTの家族の興味・関心に応じた町紹介をすることができる。

### 【実際の場面】

#### 1. ALTの家族からのビデオレターを視聴する

アメリカに住むALTの家族から「福山のおすすめの場所・食べ物を教えてほしい」というビデオレターが届いた。生徒はそれを見ながら、ALTの家族の好きなものや興味のあることを聞き取った。

#### 2. ビデオレターを基に調べる

生徒はALTの家族の興味・関心に応じた町紹介をするために、どんな場所・食べ物を伝えるべきか考え、タブレットを使って情報を集めた。「自然が好きだと言っていたから海を紹介しよう」、「福山でしか食べられない物を紹介しよう」等、必要な情報を選択できた。



#### 3. 集めた情報を交流する

書く活動の前に、生徒はALTや他の生徒とやり取りを行った。自分の紹介をしたり、相手の紹介を聞いたりする中で、「集めた情報以外に伝えることはないか」と、自らの内容を見直すことができた。

#### 4. やり取りしたことを基に書く

生徒はこれまでに学習した表現を用いて、やり取りした内容をまずは紙に書き出した。書いた文章を生徒同士で見せ合い、情報共有を行った。紙に書き出すことで、情報を整理することができた。教師は、表現に悩んでいる生徒に対して、いくつかのモデル文を提示するなど、個別の支援を行った。また、授業後に単語の綴りや細かい表現の修正などを行った。

#### 5. 電子メールで伝える

生徒は紙に書いたことを基に、ALTの家族に宛てて電子メールを送った。「アメリカは夜だけど、挨拶文にHello.と書いてもいいのかな?」「相手に会ったことが無いから、まずは自己紹介をするべきだ」等と考え、相手意識をもって書くことができた。電子メールを送ることで、生徒は手紙とメールの表現に相違点があること気付くことができた。また、実際には会ったことのないALTの家族に送ることで、英語にも丁寧な表現があることを知ることもできた。

### 【成果と課題】

#### 【成果】

- 具体的なコミュニケーションの目的・場面・状況を設定することで、生徒の書くことに対する意欲が高まった。
- 紙に書くよりタブレットに打ち込む方が書くことに対する抵抗が少ない生徒がいたため、電子メールで伝える方法は効果的であった。また、伝えたいことを整理し、文の付け加えや修正などをスムーズに行うことができた。

#### 【課題】

- 教師がモデルや型を提示したが、生徒の「伝えたい!」、「書きたい!」という思いをどこまでサポートできたかを把握することが難しかった。
- メールを送ることは情報モラルにも関わるため、英語科だけでなく他教科との連携が必要だと感じた。

### 福山市立鞆の浦学園

